

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2672200066		
法人名	社会福祉法人みねやま福祉会		
事業所名	グループホーム もみじ		
所在地	〒627-0021 京都府京丹後市峰山町吉原73番地 (電話) 0772-69-5300		
評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成22年1月28日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

明治に開校された峰山小学校が道を隔てて見える。ホーム裏の高台にはお寺が望め、ホームの傍にホームの畑がある。玄関を入ると、障子の土台を利用し、着物地などを継ぎ合わせた手作りの衝立が一瞬目に入る。屋内は明るく、空間にゆとりがある。収穫された鞘のままの小豆が廊下に干されている。猫が居間を駆け抜け、お客に連れられてきた幼児が利用者の間をよちよち歩いている。畳のコーナーではコタツに入り、ウトウトされている利用者、小豆の選別をされている利用者、ハーモニカを吹かれている利用者、食事時間が近づくとエプロンをつけ、それぞれの役割に向かわれる。食事は職員とともに摂り、昔話が豊富に交わされている。職員は管理者を含め、利用者の傍で過ごされており、会話に入り、緩やかな時間の流れが感じられる。職員は常勤職員が主で、年齢は20歳代から60歳代、認知症介護の経験は長く、ホームに愛着を持っている。2階には法人附属施設の乳児院の子ども達がグループで職員と生活をしており、1階とは日常的に行き来があるのも、このホームの特徴である。「皆さん楽しそうであらやましい」、「私も入居の予約をしたい」と運営推進会議での発言が議事録に残されている。

【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	〇無		
保証金の有無(入居一時金含む)	〇有(10万円)	有りの場合償却の有無	償却有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200 円			

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	財団法人丹後中央病院
---------	------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期における対応、ケース記録の改善、家族等の意見の反映に対する対応は、担当者を設け検討が予定されている。水分摂取、食事のカロリー値の計算は着手されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価については職員全員の意見を聞き、自己評価をまとめている。職員は情報の共有と、気付きの機会になったと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの生活や事業の様子等をフォトストーリーで説明することにより、ホームの生活がリアルに委員に示せ、理解を得るいい機会になっている。地域に向けホームからの要望を問う質問があり、もみじを訪ねて欲しい、行事や会議に参加して欲しい、食事の提供も出来る等話されている。家族からはこの会議にもっと家族に来てもらいたい、との発言があり、家族が多く参加できる日時、場所等を検討してみる、行事へも参加を呼びかけるの応答がなされている。小学校の校長先生の参加もあり今後話題の広がりが期待されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情等は現段階では、運営推進会議で出されているのが主である。委員の意見も合わせ対応されている。会議に参加している家族から、介護度の判定についての疑問・不満、もみじの運営についての説明に対する意見、ケアへの満足、もみじらしさの継続を期待する意見が出され、他の家族の推進会議への参加を要請する声が出ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元町会には、利用者一人ひとりが町会費を納め加入している。敬老会・学校の運動会への参加、中学生の体験学習受入れと、様々な地域の行事に声がかかり、参加している。ホームからは、毎月の「もみじだより」を公民館に掲示し、ホームの生活を案内している。敬老会から行事に対し支援要請もあり、2階の幼児グループの職員が応援している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念は「管理より生活」である。この理念を踏まえ、ホームの目標を「おばあさんと一緒に笑おう」としている。ぬくもり、あたたかさを象徴する存在としての「おばあさん」をイメージし、自然体で、家庭的な雰囲気を大切に、日々の生活の充実を、家族、地域を視野に入れ、取組もうとの職員の思いがこめられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者がお茶汲み、水やり、食事づくり等の役割を可能な限り果たされること、過去の経験を活かした畑仕事を通し、収穫を楽しみ、近隣におすそ分けをし、みんなで味わうことを大切にする姿勢。季節の移り代わりを散歩、買物等を通し実感できるような取組を通し目標の具現化が窺える。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元町会には、利用者一人ひとりが町会費を納め加入している。敬老会・学校の運動会への参加、中学生の体験学習受入れと、様々な地域の行事に声がかかり、参加している。ホームからは、毎月の「もみじだより」を公民館に掲示し、ホームの生活を案内している。敬老会から行事に対し支援要請もあり、2階の幼児グループの職員が応援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については、全職員で検討し情報の共有に務めている。前回の評価報告における重度化への対応、ケース記録の改善、家族に意見の反映については、担当者を設け、検討を始めている。水分摂取は着手した。重度化対策は、法人本部との一体的な取組みも含め、今後の課題とされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業の報告はフォトストーリーにして示している。ホームでの生活を委員が理解するいい機会になり、地域委員からホームに対し、地域に向け要望を問う質問がなされたり、参加した家族からもっと、この会議に家族の参加を期待したいといった発言がある。日程等は家族の来やすい日時にされてはと提案された。新しく地元小学校校長先生の参加があり、今後話題の広がりを期待する声が出されている。		

京都府:グループホームもみじ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の6ヶ所の地域密着型サービス事業所で開催している会議に2ヶ月1回参加、他京丹後市の地域ケア会議に参加し、情報の共有、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は少ない家族で3ヶ月に1回。週1回来訪される家族もある。毎月請求書とともに金銭出納簿、事業報告として「もみじだより」を同封し、新たに「もみじだより」に担当職員から一口コメントを記し届ける取組みを始めている。遠方の家族には、電話で様子を伝えている。通院介助、紙おむつ等持参する家族には、これらの機会に情報交換に務めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・感想等は現段階では運営推進会議の席で出されるのが主となっている。委員の意見も合わせ可能な限り対応している。会議に参加している家族から他の家族の当会議への参加を期待する声も上がっている。	○	ホームと家族の協力しあえる関係づくりは、質の高いグループホームづくりに繋がるものである。家族から不満、苦情は立場上言いにくい。話しやすい機会、環境づくりとして行事などの機会に家族の参加を呼びかけ、同じ立場同士で話せる機会を設けられることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考え異動は十分配慮されている。職員異動を残念がる声が家族からあがる場合もある。人事管理上、止むを得ない状況、認知症ケア経験を他の部署で活かすこと、他の部署を経験する必要も考えられている。過去1年間に1人の法人内への転出があった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、研修計画の下に新人研修、職層研修が実施され参加している。外部研修は、認知症介護実践研修を中心に経験年数に合わせ実践者、実践リーダーと、非常勤含めて受講している。今年度研修係を設け、自主的参加を期待している。法人内にはケアマネ取得者の会等があり勉強会が持たれ法人として職員の資質の向上に支援策が講じられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の6つのグループホーム管理者、並びにグループホーム介護職員と、定期的な交流会を行い、大いに参考になっている。法人内でも施設間の交流機会がある。今後は、他の法人とも交流し、学ぶ機会を設けていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込に当たっての入所体験は、空き部屋があれば対応可能である。見学は出来る限り勧め、使いなれた物を持参されるよう勧めている。契約段階でもこの生活が馴染めるか、時間をかけ利用者・家族と話し合い決めたいと考えている。入所後は、食事等の座席の配置をはじめとする利用者との馴染みの関係づくりに特に留意し、見守り、気遣っている。寄り添い話をゆっくり聞くことに務めている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と買物に行き、料理を共にする生活を自慢に職員は思っている。洗濯をしながら1対1で話し合い、過去の経験を聞き、元住んでいた家を訪ね、利用者の思い出を共に振り返ってみる。スケッチの好きな利用者やスケッチブックをもち出かけ、利用者の普段にない側面への気づきを大切に支えあう、関係づくりに生かそうとする姿勢がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々きめ細かななかかわりの中から、利用者の様子、話しの内容がよく捉えられ記録されている。生活歴等は日々の利用者の作業、食事場面での会話から拾い集められ内容が補充され、記録されている。整理についてはセンター方式を取り入れる方向で整理に努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ケアマネジャーが作成し、職員会議にて検討している。職員からの情報は豊富であるが個別具体性に欠けるとの課題意識がある。一方家族の意向、医療面の情報において個人差が見られる。	○	個々の利用者の記録からの課題整理の仕方に工夫、改善を期待する。なお、家族との話し合いや、医療関係者からの情報収集については、可能な限り情報把握に工夫され、介護計画に反映されることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に職員と、ケアマネジャーによりモニタリングがなされ、介護計画の見直しが検討されているが、評価や、再アセスメントの根拠になるケース記録については情報の整理が現段階で十分でない。今度担当が設けられ、検討がなされることになっている。	○	日々の記録は細かく書かれているが、介護計画の項目に沿った内容で整理がなされていない。記録様式の改善、工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム2階の乳児院の子ども達とは、お風呂を共にしたり、子ども達の絵がホームにかけられたり、親愛に満ちた交流が日常的にある。地域の敬老会の催しに乳児院職員が手づくりのパネルシアターを披露、ホーム利用者はじめ地域の高齢者共々楽しんでいる。ホームの畑の収穫祭を地域の人と楽しみ、ホームと地域との関係作りに活かされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は可能な限り家族に協力をお願いしているが、職員同行をしている利用者もある。利用者の主治医はばらばらである。受診にはホームでの状態を伝え、医師からの情報を得るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限りホームでの生活が継続できるよう考えているものの、医療体制面の条件整備が出来ていず職員側の不安材料になっている。家族とも日ごろから対応を話し合う必要を実感しているが、取組みはなされていない。	○	職員並びに、家族との話し合いはもとより、法人としての姿勢の確認も必要である。利用者の重度化が進む状況を考えると、特に医療との連携は不可欠であり、検討が求められる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の状況を把握し、マナー・介助の参考としている。広報の写真について了解を得ておられる。部屋の施錠、居室に電話を設けプライバシー面の配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	料理、折紙、手芸、畑作業、ハーモニカ、買物、散歩、くもん学習療法、日常生活の雑務等、関心や気の向くまま、利用者の主体的な活動を支援するよう取組まれている。利用者同士、それぞれ利用者の得意な事柄を掌握されていて、来客者に説明や、紹介をされる積極的な利用者もおられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備にはじまり、配膳等、自発的な利用者の参加が見られる。食事は、2ヶ所に分かれ職員と一緒に、おしゃべりをしながら、ゆったりマイペースで摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は、午後2時ごろ「お風呂がわきました」と知らせ希望を聞き、個々に支援している。同法人の特別養護老人ホームの大きな浴場を利用したいと考えているが、実現に至っていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に自室を案内され、過去の仕事や、趣味が偲ばれる製作中の折紙、手芸類を見せ頂く。他の利用者は、自宅近くの風景をスケッチし作成されたというちぎり絵、近所で拾った9個のどんぐりに顔が書かれ、なんともユーモラスな作品が飾られている。当ホームは手芸等の静的な作業から、畑仕事と、活動に幅がある。得意とする領域で利用者がそれなりに楽しみ、管理者、職員も利用者の中に入り、時間を共有されている光景が印象的である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日駅前まで買物に2人から3人の利用者と共に出かける。利用者は交代で出かけ、以前は今以上の利用者と、買物にも出かけられたが難しい状況が出てきている。地域の運動会や、イベントに出かけることも多い。家が残っている利用者には、「行きましょうか」と声をかけている。天橋立へ自動車や、列車で遠足に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はじめ施錠はされていず開放的である。利用者が、外の電話ボックスにおられる、一人で歩いておられるといった連絡が来る。見守りを徹底させることは難しい。そのためには近隣との付き合いが常に大切との認識、地域の人にはホームを見てられるとの日ごろからの意識も同様に重要と管理者は抱いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は5月、1月を除き毎月実施している。先に地域と、災害時における要援助者の避難施設として使用することの協定を締結していたが、ホームの背後が崖になっており、土砂災害の一件から、見直しされることになった。地域から、ことが起これば応援するとの声もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は変化があれば記録することとされている。水分摂取量は記録され改善されている。献立の栄養バランスについてのチェックは出来ていないが、カロリー値については職員が計算を始めたところである。栄養士との相談、支援は現段階ではない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的間取りは、食堂を囲むように畳敷きと、板の間の居間、台所、スタッフルームが配置されている。居室はこれら中心部から離れ建物の両端に配置されている。居室の3室はトイレが設けられ、6室は2部屋共用のトイレになっている。居室にはそれぞれベランダがあり居室内もゆとりがある。団欒スペースと、プライバシーを大事にする部分のすみ分けが意図されているように感じられた。観葉植物、机のいけばな、壁飾り、衝立等に個性が感じられる。屋内は広めで明るい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机、本箱、衣装箱が置かれ、利用者によっては床のカーペットに布団を敷き寝る人もあり、それぞれ過ごし方に個性がある。ベランダからみえる外の景色を気に入っている人、親しく見慣れた小学校がいつも眺められることを楽しみにされている利用者、校庭が近くに眺められ、子どもの歓声が聞こえそうな距離である。一方の居室からはホームの畑、高台にお寺が眺められる。		